

ソフトウェア開発による法人の魅力強化

社会福祉法人 福智会（福岡県）

住 所	福岡県田川郡福智町弁城 4193 番地 28
TEL	0947-22-1434
URL	http://www.fukuchikai.jp/
経 営 理 念	<ul style="list-style-type: none">・介護を必要とする高齢者はできる限り受け入れる・利用者さまの笑顔を私たち職員の喜びとする 一つ目の理念は、あまりにも当然の事に思えるかもしれないが、施設側が利用者を選び好みできた措置制度の時代から続く理念であり、地域の社会福祉を最優先に考える精神を表している。 これらの理念のもと、利用者様を第一に考えたケアを行っている。
事 業 内 容 及 び 定 員	特別養護老人ホーム (100名) 1 場所 認知症グループホーム (18名) 1 場所 小規模多機能型居宅介護事業所 (29名) 1 場所
収 入 (法人全体) 平成27年度決算	① 社会福祉事業 484,683,365 円 ② 公益事業 円 ③ 収益事業 円 合計 484,683,365 円
職 員 数 (法人全体)	96名（非常勤含む）
当 面 す る 経 営 課 題	<ul style="list-style-type: none">・職員確保・利用者確保・職員の質を高め・サービス向上

取り組みに
着手した
理由、背景

開設から43年。利用者様を第一に考えたケアのためにひたむきに頑張ってきており、それについて外部からの評価も得ていると自負している。しかし、その伝統を守りつつも、さらなる飛躍のためには、新しい風が必要と考えた。

利用者様を第一に考えたケアのため、利用者様の状態を把握し、個々人に合ったケアを行ってきたが、それには、熟練の職員ならではのスキルや勘に頼るところが大きかった。もちろんそれは不可欠なものであるが、長年培ってきたそのようなスキルや勘を可視化することで、新人職員でも質の高いケアを行い、熟練職員はさらなる質の高いケアを行うことを可能にできれば、法人にとって、大きな強みとなるはずである。

そこで必要なのは、どのような場合にどのような対応を行い、それがうまく行ったか行かないかを明確にすることであった。そのために、日常記録に関して、正確かつリアルタイムな記録が不可欠であるが、紙媒体の記録はもちろんのこと、市販の電子記録システムでは、正確性とリアルタイム性を十分に担保するものが見当たらなかったため、記録ソフトの独自開発に着手した。

取り組みの
現時点
での効果

正確かつリアルタイムな記録の集積により、どのような場合にどのような対応を行えば、結果はどうなるかという記録が一目瞭然となった。

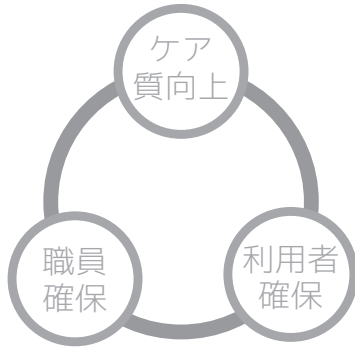
それにより、対応策の是非を事後的に検討したり、試験的に対応を行いその結果を後で検討するといったことが可能となった。

今までは、試験的対応をとっても上手く行かなかったという結果だけが会議の場にあがってきたり、熟練職員が試行錯誤して上手く行った結果を参考にしたりといったことが多かったが、今では、なぜ上手く行かなかったのかを蓄積データを元に分析したり、試験的対応もみんなで行い記録を取っていくことでより早く結果に繋げることが可能となった。それによりケアの質向上に繋がっている。

このような記録ソフト開発が、求人においてすでに効果を挙げている。電子化というだけで若者ウケがいいのはもちろん、培ってきた企業理念に基づきながらも新しい挑戦をする姿勢に共感する人材が集まってきている。

他にもレクトリハビリを兼ねたゲーム開発にも着手しており、「田舎」や「介護」のイメージとは正反対の最先端技術活用が、当法人のみならず地域や業界のイメージアップにも寄与できればと考えている。

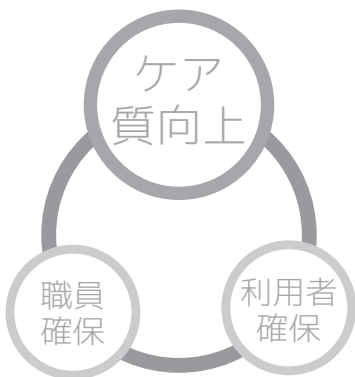
経営問題の輪



どの法人にも共通する3つの経営課題が左図にある。これらのひとつひとつは、独立しているのではなく、相互に関連し合うもので、一度負のスパイラルに入ると抜け出しにくくなる。

今回の取り組みは、**ソフトウェア開発という、未だどの施設も真剣に取り組んだことのないであろう手法**でこれらの課題について向かい合い、改善を見た。

なぜソフトウェア開発か



当法人の経営理念は利用者を第一に考えたケアである。これが当法人の強みであり継続的なウリになっていると自負している。ケアの質のさらなる向上は魅力強化に直結し、ひいては「職員確保」、「利用者確保」も改善されると考え、ケア質向上を至上目的とした経営改善に取り組むことにした。

ケアの質を高めるためには何よりも、各利用者の状態を全員が正しく詳細に知る事から始まる。また、集まったデータを素早く分析し活用する事も必要である。これを可能にするには、日常介護記録の電子化しかない。

実は当法人では以前に電子化を試みたことがあり、介護請求ソフトにその機能もついている。しかし、それでは上手くいかなかった。


落とし穴

ICT等の言葉ばかりが世間では先行しているが、経営課題の解決に実際に結びつくものは数少ない。

電子化は万能ではなく、たまに使うデータの電子化だけなら Excel で表を作って入力すれば良い。iPad やパソコンで入力するより紙に書いた方が早い事もある。

**「介護記録を iPad で入力して」
経営課題に取り組めるのか？
差別化できるのか？**

ソフトの導入・電子化が目的ではなく、経営課題の解決が目的で、手段となるソフトの開発が必要である。



**帳票・記録の電子化
オンライン化
タブレット入力**

解決方法のコンセプト



ソフトウェアの開発で実現したいのは、利用者状態の把握によるケアの質向上であるが、そのために外せないのが、

- ・リアルタイムな入力・活用
- ・正確な記録

の2点である。

例えば、水分摂取状況の改善といったケアの質向上を考えたとき、6時間以内の水分摂取量を随時見ながら水分補給の要注意者をリストアップしたりするには常に最新情報が必要である。業務終了間際に日常介護記録の時間を設けても、使えないデータを入力するだけの業務になってしまう。

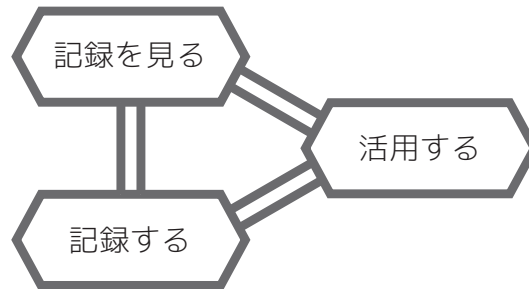
また、ケアを行ったその場で記録しなければ、記憶も曖昧になってしまう。リアルタイムで入力できれば、より正確なデータを集めることができる。

解決方法のコンセプト

結局、活用目的のないデータは見ない。見ない・活用しないデータを入力するのは苦痛である。逆に、見て、活用する事ができれば、記録をするモチベーションにつながるし、成果がデータとして目に見える。この記録に関するスパイラルを上手に回す事が不可欠である。

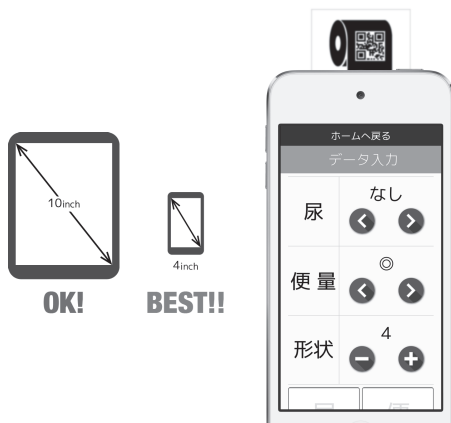
つまり、記録に関する職員の意識改革が不可欠である。

活用するには、データの見せ方がネックとなる。例えば、棒グラフや折れ線グラフだけで分かることもあるが、それだけでは、気付けない情報がある。情報の活用の目的に合わせた、グラフィカルな出力方法も検討しなければならない。



記録意識の輪

開発



以上は理屈だが、実現ためには、**どの市販ソフトよりも素早く入力でき、記録が見やすく、使いたくなるソフト**を開発する必要がある。

小さな技術を無数に組み合わせることで、正確性とリアルタイム性を担保できるソフトが出来上がった。

まず、iPod touch(スマホサイズの端末)を職員全員が持って活用できるよう、小画面で使いやすいデザインを追求。意外にもiPadなどのタブレットサイズ向けのソフトが多く、スマホサイズ用のものは少ない。

他にもQRコード撮影だけで、一瞬で利用者様の直近の記録と記録入力画面にアクセスできる機能も。忙しい業務の中で反発がでないように、ミリ秒単位でも動作を高速化させていった。

効果 1

素早く入力できるようになった事で、記録に使う時間も圧縮でき、記録のための残業はゼロになった。素早く入力できる事でリアルタイム記録ができるようになった。そして、正確な記録を元にした分析と活用ができるようになった。

実例として、オムツ外しの取り組み・水分補給強化の取り組みでは、データを元に分析し、集中して取り組む利用者様の選定と取り組み方の検討が行えた。これらは、正確な時間のデータがなければ成し得なかった。リアルタイム入力にこだわったからこそ、トイレの時間把握や、水分補給の質も掴むことができた。

今では、「記録すること」「記録を見る事」「記録で分析する事」が習慣づいている。

記録の残業ゼロ

オムツ外しなどのサービス向上

データを元に考える職員意識改善

効果 2

求職者・家族への強いアピールポイント

企業理念姿勢の発信

まだ開発から1年程度だが、求人において効果を挙げている。記録ソフトの開発自体が、若い世代にはインパクトがある事もさることながら、培ってきた企業理念に基づきながら新しい挑戦をする姿勢に共感する求職者の呼び込みに効果があり、当法人が求める職員確保に繋がっている。

今後、求職者のみならず広く一般にPRする事で、利用者確保や法人のイメージアップに繋げていきたい。

さらなる開発

当法人では、調理スタッフが全食事を作っている。そこで、給食献立ソフトも開発し、上述のシステムと連動させた。より正確なデータを取る事ができ、栄養状態改善への取り組みができる下地が完成した。

現在取り組んでいる他の技術開発として、
VR 技術の活用
呼吸・脈拍データの利用
ゲームソフトの開発
が挙げられる。どれも旬なテーマではあるが、ケアの質向上を最終目標とする、経営改善に繋がるものを追求し続けている。

